

「統計改革に向けた課題」について

美添泰人（青山学院大学経営学部プロジェクト教授）

「1. EBPMの推進」について

- EBPMについては、統計に限らず、それ以外の情報を適切に活用できる仕組みを整備することが推進の前提となり、重要な課題。このため、統計の整備（2以下で詳述）に加え、行政記録情報等をデータベース化するとともに、その情報を連結するなどして、相互に利活用できるような仕組みの整備を検討することが必要である。
- また、この行政記録情報等のデータベース整備とともに、その情報を可能な限り統計化（集計）し、広く一般に提供することも忘れてはならない課題である。
- 政府の統計調査により集められた調査票情報を厳格な安全性の下で利用できる「オンライン施設」が動き出しているところ。先端的な統計的研究のためだけでなく、客観的な政策評価のためにも、この取組を推進することが必要である。

「2. 及び3. GDP統計の精度向上等」について

- マクロ統計の中心であるGDP統計の精度向上には、推計手法及び基礎統計の一層の改善が必須であり、この取組はEBPM推進の大前提である。
- また、この統計改善と継続的なフォローアップを円滑に推進するためには、統計専門家と社会・経済・医療等の各分野の専門家の知見を反映できる組織において、政府全体の課題として検討を実施することが重要であり、具体的には、統計委員会の機能強化が現実的な選択肢である。
- さらに、この改善を着実かつ迅速に推進するためには、統計作成に従事する人的資源を確保することが必須である。また、統計の企画段階から、利用者・報告者・作成者の3者による協力が重要である。

「4. 及び5. 統計行政部門の構造的課題への対応等」について

- EBPMに必要な統計や、国民・企業等の需要に適切に対応した統計を、適時に作成・提供するためには、人員と予算の確保が不可欠である。特に、専門的な知識と経験の共有を継続することが決定的に重要である。
- 政府全体として、統計職員の長期的な育成・確保を真剣に検討しなければ、統計機構は弱体化し、EBPM等に求められる統計の改善も困難となる。
- このような状況の中、高等教育機関における統計教育の充実も図りつつ、政府の統計機関と大学等との交流を活性化することは、実現可能性の高い方策である。

以上